

# 再説：衆議院議員に血液型の特徴が見られるか (I)

動物行動学者 竹内久美子に伝える (1)

大村政男・浮谷秀一・藤田主一

(日本大学・東京富士大学・日本体育大学)

Key words: 血液型 首相 (内閣総理大臣) 托卵行動

目的 能見正比古は、1978年4月現在の衆議院議員453人(第34回総選挙による)の血液型を調査し、狭い意味での政治性、政治家タイプの主役はO型なのだと言った。この能見のデータは  $\chi^2_0 = 26.81 (P < .01)$  で裏づけされているが、草野直樹の研究(第40回総選挙による)ではO型は消えている。 $P < .01$ なのに天逝してしまったのである。帰無仮説は安易に棄却できないことを知るべきであろう。ここでは前回(日心71回大会)における質問を踏まえて、再度、衆議院議員の血液型を追究していこうと思う。最初に、国会議員のなかから選ばれる首相について考察してみる。

問題 『小さな悪魔の背中の窪み』(新潮社、1994)の著者竹内久美子は、その著書の第1章「血液型とは実は何か」のなかに「永田町老人が元気な理由 O型人間は病気に強い」という節を置き、第2章「血液型と性格の謎に迫る」のなかで「血液型と性格の関係はなぜ“俗説”なのか そのなかなか単純でない歴史」と「血液型と性格はやっぱり関係がある! 性格とはそもそもどういうことか」について記述している。これらのなかにはしばしばO型が登場してくる。O型は古川によって「意志型」とされた血液型であるが、竹内は古川とは別な観点からO型に注目している。

方法 竹内久美子による前掲書、東洋経済新報社の『政界・官庁人事録』各版、セイサクジホウ・アイ・ピイ社刊の『政官要覧』各版、その他各新聞社刊の資料を参照して歴代首相の血液型や在職日数を調査する。

竹内久美子 竹内は1956年生まれ。京都大学理学部卒、大学院修了。動物行動学者。著述多数。『そんなバカな! 遺伝子と神について』(文春文庫)は講談社出版文化賞を受賞している。『小さな悪魔の背中の窪み』のプロローグは、ホトトギス科の夏鳥「かっこう(郭公)」の托卵行動とその雛についての物語である。日本の郭公のメスはそれぞれ個性的に特定の鳥(例:モズ、ホオジロ、オオヨシキリなど)を選んで托卵する。これらの鳥が宿主になる。郭公は托卵するとき宿主の巣の中の卵の数をうまく調整する。すなわち、郭公が卵を1個産卵すれば宿主の卵1個を巣の外に棄ててしまう。これで卵の員数が合い、宿主が帰巢しても気がつかない。やがて郭公の卵が孵化する。郭公の卵は巧妙な遺伝的機制で宿主の卵よりも早く孵化する。孵化した雛(小さな悪魔)はその背中の窪みをうまく活用して宿主の産んだ卵を巣の外に棄ててしまう。どうしたことが宿主は自分と似ても似つかない郭公の雛を育てていく。しかし、竹内によれば卵をめぐる攻防があるという。郭公は宿主の卵に似た卵を産む、宿主はそれに対抗して卵の識別能力を高め外敵の産んだ卵を排除するという攻防である。さらに卵のモデルチェンジも……。

次に、竹内は人間の体内における攻防戦を記述する。人間にも病原体を他者と認知し排除しようとする機構(免疫機構)がある。これを血液型でいえば、O型の人にはガンに罹りにくい。なぜかという、がん細胞はなぜかわからないがA型の糖鎖を作り出している。O型の人には(B型の人もそうだが)、血清中に抗A抗体を持っている。これがA型の糖鎖をまとったがん細胞の侵入を見逃がすはずがない。A型の糖鎖を持った細胞は、はっきりいって自己ではないのである。自己でないものに対して免疫系は容赦のない攻撃を加えることができ

る。正体を見破られたがん細胞は死滅してしまうのである。

竹内久美子は、永田町の老人が元気なのはガンのような病気に冒されにくいからだという。なお、藤田紘一郎の『パラサイト式血液型診断』(新潮社、2006)によると、O型が罹りやすいガン系の病気はほとんどないが、A型には、胃ガン、食道ガン、子宮ガン、乳ガンと並び、肺結核、糖尿病、心筋梗塞まで付け加わっている(もちろん、ガンで死亡するO型の人もいるし、ガンにならないA型の人もいる)。

結果 ここにある首相に関するデータは初代の伊藤博文から91・92代の安倍晋三にいたるまでのものであるが、往時の首相で血液型がわかっているのは、若槻礼次郎(26代・29代、A型)と浜口雄幸<sup>[おさち]</sup>(28代、O型)だけである。しかし、戦中戦後になると、東條英機(41代、B型)から安倍晋三(B型)にいたるまで(42代の小磯国昭を除き)判明している。そこでここでのデータは、A型8人(15回就任)、B型4人(6回就任)、O型16人(27回就任)、AB型2人(3回就任)、合計30人(51回就任)についてのものである。Table 1は、就任回数を基準にして首相にO型が多いことを表わしたものである。このデータをカイ自乗検定で検証すると、 $\chi^2_0 = 11.27 (P < .05)$ になる。首相にはたしかにO型の人がいれば就任している。その要因はなんなのか。

Table 1 O型が首相に就任することが多い

	A	B	O	AB	合計
観察値	15	6	27	3	51
期待値	19.0	11.3	16.1	4.6	51.0

(注) 期待値の計算は古畑種基の基準による。

首相の在職日数はさまざまな力のダイナミックスで決まってくる。「一因一果」の論理ではつかめないが、いちおう血液型を基準にまとめてみよう。Table 2がそれである。

Table 2 30人の首相の就任・在職状況

血液型	人数	就任回数	在職日数	個人のレンジ
A	8	15	7,948	67~2,793
B	4	6	2,822	366~1,001
O	16	27	11,262	49~2,598
AB	2	3	1,565	636~929

1位は佐藤栄作A型の2,793日、2位は吉田茂O型(彼は5回も首相になっている)の2,598日、3位は小泉純一郎A型の1,970日、4位は中曽根康弘O型の1,799日、5位は池田勇人O型の1,571日である。この5人の政治家は民主主義の時代における専制的な人である。

考察 竹内は、O型はさまざまな病原体に強い、そこで身体的に丈夫だ。ゆえに寿命が長い、生命力の強さは性格的な強さを招来する——という文脈によっている。E.Fromm(1941)は、「自我は活動的であるほど強い」という。性格形成には納得できないこともないが……。

(引用文献) 竹内久美子・藤田紘一郎の著書(書名は文中)

(Ohmura Masao, Ukiya Shuichi, Fujita Shuichi)